

シンポジウム「手取川濁水現象に関する研究報告会」



3月9日（木）、石川県立大学第1大講義室、シンポジウム「手取川濁水現象に関する研究報告会」を開催しました。この研究会は、石川県立大学が関係機関と連携を図りながら、濁水現象がもたらす影響を継続的に監視し、手取川の流域環境に関する情報を地域住民の方々に向けて広く発信することを目的としています。昨年に引き続き2年目となる研究では、新たに本学の教員が多数参加し、内容もより充実したものとなっています。今回の報告会では、108名を超える多くの方々にお越しいただきました。

環境科学科の7教員による発表は、上流域から下流域へと土砂が流れる方向に沿ってリレー形式で行われ、濁水が手取川の流域環境に与える影響を多角的に検証しました。

崩壊発生以降2年間の地形変化と植生復元の方向性 柳井清治教授

過去に発生した別当谷の大規模崩壊地の植生調査、LiDARを用いた地形解析、及び不安定斜面にも活着が期待されるヤナギ類を用いたさし木試験の結果を報告し、地すべり地の修復の方向性と航空実播の可能性を検討しました。



宮竹用水沈砂池の堆砂特性と農地への土砂流出抑制効果 瀧本裕士教授

宮竹用水沈砂池について堆砂量と流速の関係から堆砂特性を求め、下流側農地への土砂流入がどの程度抑制されるのかを報告しました。



トミヨの生息状況モニタリングと保全対策の検討 一恩英二教授

生息状況モニタリングを通じて、手取川扇状地の地下水位の低下によって生じた湧水の消失および減水がトミヨの生息地にどのような影響を与えるのかについて報告しました。またトミヨの生息地保全に向けた取り組み体制や施設計画の検討を提言しました。



手取川懸濁物の沿岸海域への影響1 百瀬年彦准教授

「山からの崩壊土砂は砂浜海岸の形成に寄与すると考えられたが、そうではなかった。」この疑問を明らかにすべく、七ヶ用水を対象に水田や用水路の堆積土砂の粒度分析を行い、羽咋市の海岸砂と同じ粒径のトラップ状況を報告しました。



手取川懸濁物の沿岸海域への影響2 岡崎正規教授

甲イカ漁具に付着した手取川懸濁物の鉍物を光学顕微鏡、走査型電子顕微鏡、X線回折装置、蛍光X線分析装置を用いて分析し、手取川上流の崩壊地土壌と鉍



物組成および化学組成が類似していることを明らかにしました。

土砂崩壊に伴う濁水が手取川扇状地の水循環に与えた影響 前半 藤原洋一准教授

土砂崩壊に伴う濁水が手取川扇状地の水循環に与えた影響を分析するために、扇状地内の現地調査を通じて水田浸透量や河川浸透量の変化を評価しました。



土砂崩壊に伴う濁水が手取川扇状地の水循環に与えた影響 後半 高瀬恵次教授

水収支モデルによる数値シミュレーションや最先端の機械学習による要因分析を通じて、濁水が手取川扇状地の水循環にどのような影響を及ぼしているのかを検討しました。

